

## 6 月 23 日は「オリンピックデー」今本当に考えるべきは何か？ 2020 年はビッグチャンス！芸術文化を社会のエンジンに

### —東京の芸術文化創造の旗手「アーツカウンシル東京」—

2020 年五輪の開催地が東京に決定して以降、最近の五輪報道で目立つのは、会場、予算、エンブレム等ネガティブな話題ばかり。世の中で巻き起こっている議論の焦点が負の側面に集中し、五輪の開催自体への批判すら生まれています。

一方、今月 6 月 23 日は、「オリンピックデー<sup>※1</sup>」。日本だけでなく各国のオリンピック委員会が記念イベントを行い、五輪に向けた気運が高まる日です。2020 年まで約 3 年と近づいてきている今、これを機に、「東京五輪に向けて本当に必要なことは何なのか」、ポジティブな議論をしていくべきなのではないでしょうか。

#### ■五輪における文化プログラムの重要性 ～都市の発展につなげたロンドン大会の成功～

先進国である日本にとって、インフラ整備、スポーツ施設の建設など、ハード面でのメリットは多くはありません。では、2020 年東京五輪は何をもたらしてくれるのか。その答えは、「文化」にあります。

オリンピック・パラリンピックといえば、スポーツの祭典というイメージが強いですが、「文化の祭典」でもあります。開催国の日本が誇る文化を世界に発信し、また世界各国と文化で交流し、五輪後にも残るレガシーとする、またないチャンスなのです。それは、4 年間で約 17 万件の文化プログラムを展開し五輪成功の一翼を担ったといわれる 2012 年ロンドン五輪が証明しています。

例えば、ロンドン五輪における文化プログラム約 17 万件は、ロンドンだけでなく、イギリス全土の中小都市約 1000 ヶ所で行われ、204 の国と地域から、4 万人を超えるアーティストが参加。4 年間で 4340 万人が文化プログラムに参加したといわれています<sup>※2</sup>。英国は、大規模で先進的な文化プログラムの展開により、文化都市としての価値を大きく向上させたのです。

#### ■東京の文化プログラムをリードする「アーツカウンシル東京」～芸術文化で東京の魅力を広く発信～

東京都は、大規模な文化プログラムの展開に向けて動き始めています。その実行部隊として、2020 年に向けた東京の文化プログラムの創造をリードしているのが、「アーツカウンシル東京」です。

「アーツカウンシル」とは、「芸術文化に対する助成を基軸に、政府・行政組織と一定の距離を保ちながら、文化政策の執行を担う専門機関<sup>※3</sup>」。「アーツカウンシル東京」は、アート団体・個人を対象とした助成・支援、アートプロジェクトの主催・共催など、2020 年に向けた文化プログラムの展開をリードし、且つそれ以外にもアート活動に取り組む人々たちを色々な角度から支援しています。芸術文化都市としての「東京」の魅力を高め、日本国内、そして世界に向けて発信する役割を担っているのです。



「アンサンブルズ東京 2016」



「東京大茶会 2016」

#### ＜報道関係者のお問い合わせ先＞

アーツカウンシル東京広報代行：株式会社プラップジャパン 岩坂、金子、松葉  
TEL：03-4580-9106 FAX：03-4580-9132 MAIL: artscouncil-tokyo@prap.co.jp

## ■ アーツカウンシル東京が推進する、2020 年に向けた文化プログラム

現在 2020 年に向けてアーツカウンシル東京が展開している文化プログラムの代表事例が、「東京キャラバン」「TURN」という 2 つのプロジェクト。

「東京キャラバン」は、劇作家・演出家・役者である野田秀樹氏の発案により、多種多様なアーティストが出会い、“文化混流”することで新しい表現が生まれるというコンセプトを掲げ、日本各地に出現し繰り広げられる「文化サーカス」。3 年目となる今年は、京都・熊本・八王子で開催します。「TURN」は、異なる背景や習慣を持った人々が関わり合い、さまざまな「個」の出会いと表現を生み出すアートプロジェクト。一人ひとりの“その人らしさ”を尊重することのできる、より豊かな関係性の創造を目指し、アーティストの日比野克彦氏監修の下プロジェクトを推進し、今年 5 月に年間プログラムを発表しました。

また、「東京文化プログラム助成」という助成事業、「東京文化プログラム公募事業」という委託事業を積極的に展開し、2020 年に向けた文化プログラムの推進に寄与しています。いわゆる芸術文化のジャンルである音楽や演劇、美術などに限らず、テクノロジー分野との融合など、新しい表現の創造、新しい技術開発などの未来に向けたチャレンジも、五輪後のレガシーになりうる文化プログラムとして、積極的に支援を行っています。



野田秀樹氏監修「東京キャラバン」リオデジャネイロでのパフォーマンスの様子



日比野克彦氏監修「TURN」リオデジャネイロでのワークショップの様子

### ～ 2020 年は日本の芸術文化にとって大きなチャンス。この機会をどう活かすかが重要 ～

アーツカウンシル東京 オリンピック・パラリンピック文化戦略担当課長 石綿 祐子

#### ■ 2020 年をきっかけに、日本の文化をどう進化させるか

「2020 年は、芸術文化にとって大きなチャンスであり分岐点であると捉えています。まず、次世代のアーティストが文化プログラムの創造にチャレンジできる機会であること。若いアーティストたちには、ぜひこのチャンスを掴んでステップアップしてほしいと思っています。また、演劇、音楽、美術、伝統芸能など日本が誇る魅力的な芸術文化を世界に発信する機会であること。まだまだ世界に知られていない日本や東京の魅力を、芸術文化を通して世の中に発信していくことができるでしょう。

普段芸術文化にあまり触れない人や、国内だけでなく海外にも積極的に情報発信し、その魅力を知っていただきたいです。この機会をどう活かせるか、しっかり考え実行していくことがアーツカウンシル東京の役割だと考えています。」

#### ■ 2020 年に向けて

「アーツカウンシル東京は、芸術団体への助成・アートプロジェクトの開催といった事業を通して、2020 年に向けた文化プログラムの創造を推進しています。現在進行形の事例として、野田秀樹さん監修の『東京キャラバン』と、日比野克彦さん監修の『TURN』などのプログラムが進んでいます。2020 年に向けて他にも様々なプロジェクトがこれから動き始めます。」



## ■ アーツカウンシル東京とは？ ～アート活動に取り組む人たちをさまざまな角度から支援～

アーツカウンシル東京が推進しているのは、オリンピック関連事業に限ったことではありません。東京都の政策立案、東京芸術文化評議会<sup>※4</sup>の政策提言・政策評価を踏まえて、さまざまな事業を実施しています。また、定期的開催されているカウンシルボードでの議論等を踏まえ、東京都への事業提案も行っています。

具体的には、世界的な芸術文化都市東京として、芸術文化の創造・発信を推進し、東京の魅力を高める多様な事業を展開。新たな芸術文化創造の基盤整備をはじめ、東京の独自性・多様性を追求したプログラムの展開、多様な芸術文化活動を支える人材の育成や国際的な芸術文化交流の推進等に取り組んでいます。

### 【事業内容】

#### ① 芸術文化支援事業

東京の芸術文化の魅力を向上させ世界に発信していく活動を支援するため、芸術文化活動を行う団体・個人に対する「助成」を実施しています。助成は、その申請内容によって、4つのカテゴリに分けられます。芸術表現活動全般を対象とし、単年だけでなく長期の助成も実施する「東京芸術文化創造発信助成」、それぞれの地域の文化拠点となり観光振興にも寄与する活動を支援する「東京地域芸術文化助成」、芸術文化を通して社会や都市の課題に向き合う活動を支援する「芸術文化による社会支援助成」、東京 2020 オリンピック・パラリンピックの開催気運を高める芸術文化活動を支援する「東京文化プログラム助成」があります。

#### ② 芸術文化創造・発信事業

芸術文化団体やアート NPO 等と協力して実施する事業です。幅広い分野におけるフェスティバルの開催等を通じて、新たな東京文化を創造し、世界に向けて発信していきます。また、文化の面でのレガシーを 2020 年以降に継承し、文化の魅力であふれる都市東京の実現をめざします。

##### ●フェスティバルや参加型プログラムの開催

幅広い分野におけるフェスティバルの主催・共催や子供・青少年、外国人向けの参加・体験プログラムの実施を通して、芸術文化の創造活動を拡充・発信し、継承しています。「六本木アートナイト」は、今年で 8 回目を迎える一夜限りのアートの饗宴。六本木の街のいたるところを舞台に、アート作品のみならず、デザイン、音楽、映像、など多様なプログラムを展開しています。また、次世代を担う子供たちを対象に、プロ講師がレクチャーする「キッズ伝統芸能体験」といったプログラムも展開しています。

##### ●文化創造拠点の形成（東京アートポイント計画）

地域社会を担う NPO とアートプロジェクトを展開することで、無数の「アートポイント」を生み出す取り組みです。現在は、小金井市、足立区ほか都内各所でプログラムを展開。2010 年から展開する「TERATOTERA（テラトテラ）」は、「アート」によって、高円（寺）、吉祥（寺）、国分（寺）の 3 つの周辺地域を結んで展開するアートプロジェクトで、沿線を中心に様々なアートイベントが開催されています。

##### ●東京の文化力による震災からの復興

芸術文化を活用した東日本大震災被災地支援のための事業です。被災地域のコミュニティに対して、現地のアート NPO 等と連携しながら、アートプログラムを実施し、地域の多様な文化環境の復興を支援しています。



「六本木アートナイト 2016」の様子 ©六本木アートナイト実行委員会



「TERATOTERA」TERATOTERA 祭り 2016 Involve 一価値観の異なる他者と生きる術— の様子 Photo: Hako Hosokawa

### ③ 人材育成事業

東京の芸術文化事業を担う人材を育成するプログラム「アーツアカデミー」を開講。現場調査やテーマに基づいた演習などを中心としたコース、劇場運営の現場を担うプロデューサー育成を目的とするコース等を実施しています。

また、「Tokyo Art Research Lab」では、新しい芸術文化の担い手を育て、彼らが必要とする手法やスキルを開発していくことを目的とし、アートプロジェクトの担い手を育成していく「思考と技術と対話の学校」と、環境整備と方法論の確立を担う「研究・開発」の二軸で事業を展開しています。

### ④ 国際ネットワーク事業

芸術文化分野において今日のかつ重要なテーマを取り上げる「アーツカウンシル・フォーラム」を定期開催。国内外のアーツカウンシル、芸術文化交流施設・機関、アーティストやクリエイター間のディスカッションの場として機能しています。

### ⑤ 企画戦略事業

東京の芸術文化環境を向上させるための様々なテーマに基づいた調査研究を実施するなど、シンクタンク機能を充実させます。東京における芸術文化の魅力や価値を顕在化し、理解や共感を広めるため、多様なメディア等を通し、国内外へ向けて広く情報発信しています。また、新たな情報発信手法の研究にも取り組んでいます。



「Tokyo Art Research Lab」思考と技術と対話の学校 説明会



「アーツカウンシル・フォーラム」

#### 《参照・引用》

※1 第二次世界大戦後の 1948 年、1894 年 6 月 23 日の IOC 創設を記念し、同日をオリンピックデーとすることを決めた。そして、各国のオリンピック委員会（NOC）に対し、オリンピックムーブメントの一環としてオリンピックデー記念行事を実施するよう呼びかけた。

引用：公益財団法人日本オリンピック委員会 <http://www.joc.or.jp/olympism/olympicday/>

※2 引用：吉本光宏氏レクチャー「オリンピックと文化プログラムについて」レポート

[http://www.mecenat.or.jp/ja/reading/post/olympic\\_yoshimoto/](http://www.mecenat.or.jp/ja/reading/post/olympic_yoshimoto/)

※3 引用：「地域アーツカウンシル-その現状と展望-」ニッセイ基礎研究所 社会研究部 研究理事 吉本 光宏

<http://www.nli-research.co.jp/report/detail/id=42467?site=nli>

※4 文化振興のための施策を総合的かつ効果的に推進することを目的に、専門的な見地から調査審議するため、「東京都文化振興条例第 17 条」に基づき設置された知事の附属機関

引用：東京都生活文化局 [http://www.seikatubunka.metro.tokyo.jp/bunka/bunka\\_seisaku/0000000208.html](http://www.seikatubunka.metro.tokyo.jp/bunka/bunka_seisaku/0000000208.html)